オリンピアンを知る

岩渕 麗楽（いわぶち れいら）さん

●Profile　東山町出身。4歳からスノーボードを始める。2013年に全日本スキー連盟のナショナルチーム強化選手に指定。18年平昌オリンピックに出場。表彰台を目指す。趣味はお菓子づくり

みんなに応援される選手を目指して

両親の影響で4歳からスノーボードを始めました。小学生の頃から「大会で勝ちたい」という思いが強くなりました。高学年の頃、何をやってもうまくいかない時期もありました。でも、つらくても、やめずに続けたことが今につながっています。目指すのは、あいさつや感謝の気持ちをしっかり示し、皆さんに応援してもらえる選手を目指します。

【主な大会成績】

▶第23回全日本スキー選手権ビッグエア（2017年3月）…3位、同スロープスタイル（17年3月）… 優勝／▶第23回世界ジュニア選手権（17年3月）…スロープスタイル・ビッグエア2種目で準優勝／▶スノーボードワールドカップ・ビッグエア（17年12月）…優勝▶スノーボードワールドカップ・スロープスタイル（18年1月）…準優勝／▶ウインターXゲームズ・ビッグエア（18年1月）…準優勝

スロープスタイル滑走後の麗楽さんと両親（江原茂さん撮影）

1_練習の合間に見せる愛くるしいしぐさは16歳の少女そのもの／2_上位入賞し笑顔をのぞかせる／3_宙を舞い、華麗な技を披露する（1～3、lee ponzio撮影）／4_パブリックビューイング（スロープスタイル決勝）は2月12日、東山地域交流センターで行われ約350人が麗楽さんの活躍を見守った。「ファイト、ファイト、麗楽」と一関学院野球部70人が声を張り上げる。会場が一丸となって金色のスティックバルーンを打ち鳴らした

［応援特集］岩渕麗楽選手 五輪出場記念

トップをねらえ！

小柄な体に秘めた可能性

平昌（ピョンチャン）オリンピックスノーボード競技のスロープスタイルとビッグエアの女子日本代表に選ばれた岩渕麗楽さん（一関学院高1年、キララクエストクラブ）は2月9日、平昌へ乗り込んだ。

数々の夢を実現してきた149㌢の小柄な体には、まだ底知れない可能性が秘められている。スノーボード界の新星が初の五輪で狙うのは表彰台の頂上だ。

しかし、ひたむきに磨き上げた技もジャンプも平昌の強風に阻まれた。

スノーボードの女子スロープスタイル決勝は2月12日、フェニックスパークスキー場で行われ、麗楽さんは48・33点で14位に終わった。

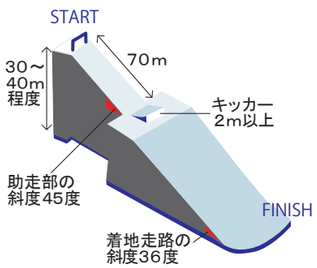
前日行われる予定だった予選は、強風のため中止。全選手が決勝に進み、演技回数も3回から2回に減。メダルの行方は一発勝負となった。

当日、決勝の会場は、強風が吹き荒れていた。選手たちは、気まぐれな突風に空中技を乱され、転倒者が続出した。

二度の滑りを終えて「自分の滑りができなかったことが一番悔しい」と唇をかむ麗楽さん。だが「気持ちを切り替えてビッグエアに集中します」とキッパリ。

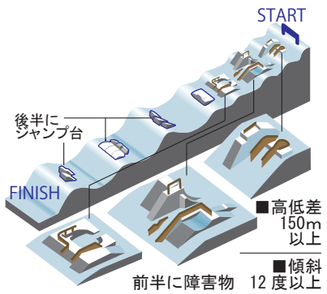
その言葉のとおり、2月19日に行われたビッグエア予選では92・75点で予選を3位通過。同日、東山地域交流センターで行われたパブリックビューイングに集まった160人が歓喜の声を上げた。予選で選択した技は逆スタンスで踏み切って横二回転半する「キャブ900」。大技を温存し、余裕すらうかがえるジャンプを披露した。小柄な体に秘めた可能性に期待が高まっている。（編集／2月19日）

●新種目「ビッグエア」とは？



スノーボードの「ビッグエア」は、キッカーと呼ばれるジャンプ台から跳び空中で繰り出す技で得点を競う。北米を中心に若者の人気が高く、今大会から正式種目に加わった。平昌の特設キッカーは高さ33㍍。70㍍の助走部で加速して空中へジャンプ。その高さは6㍍以上。飛距離は約40㍍にも及ぶ。空中での技の難易度や完成度を競う。決勝では3本のうち2本の合計点で順位を決める。対象となる2本はそれぞれ、別の技が必要で、引き出しの数も問われる。空中で縦2回転、横3回転を決める大技「バックサイドダブルコーク1080」の成功に期待が高まる。

●「スロープスタイル」とは？



スノーボードの「スロープスタイル」は、前回ソチ五輪から新種目として採用された。高低差150㍍以上の斜面を滑走しながら、途中に設置された障害物の上を滑る技術や、ジャンプ台を使って繰り出す技で得点を競う。

平昌のコースは全長615㍍。6つの「セクション」があり、前半3つは障害物、後半3つはジャンプ台と分かれている。6セクションはそれぞれ10点満点で採点され、残り40点は印象点として評価される。

障害物の上を滑る技術、空中で繰り出す技の難度、着地の精度などを100点満点で採点される。

●スノーボードと五輪

冬季に五輪が行われるようになったのは今から90年以上前の1924年のフランス大会から。スキー、スケート、アイスホッケーなどが行われた。

スノーボード競技が採用されたのは98年の長野オリンピックから。男女ハーフパイプと大回転が採用された。2002年ソルトレークシティ五輪で大回転が2人同時に滑るパラレル大回転に変更され、06年トリノ五輪から複数人が同時に滑るスノーボードクロスが追加されるなど変更が多い。